

# 長期開門は可能

## 愛知県専門委が報告書案

河川の生態系回復に向けた  
長良川河口堰(せき) (三重  
県桑名市)の開門調査の報告  
を検討してきた愛知県有識者  
会議の専門委員会は、自ま  
で「堰上流で取水している水  
道や工業用水の代替水源を確  
保すれば、長期開門は可能」  
とする報告書原案をまとめた。

国は「全開すれば上流に塩  
害が生じる」との立場を示し  
てきたが、水質が計画を下  
回っていることも背景に水質  
確保は可能と指摘。アエなど  
の生態環境改善のため、開門  
期間は「少なくとも1年以  
上」が必要とした。

8月中旬に有識者会議は報告  
し、同会議が議論した中で大  
村秀道知事に最終報告。川の

水利権を保持し事業費を一部  
負担する愛知県として、国に  
開門調査を理順するかどうか  
の判断材料とする。

原案は、海水と海水が入り  
交じった状態で生息する魚類  
や回遊魚の生息に対する事業  
の影響を調査した。開門  
により、堰留めで蓄積がまし  
い状況などの緩和につながる  
とした。かつて壊されたヤ  
マトシジミは堰の半流で分  
布範囲が拡大し、アエの稚工  
(せじょう)環境改善にも期  
待を示した。

また水質などの取次量は  
当該社側の約10倍にとまっ  
ている指摘。開門で塩害は  
生じるものの、水質を長良川  
水系に切り替えることは可能  
とした。